



市小学校水泳記録会

■7月23日、市営プールで行われました。市内小学校から5・6年生の代表児童が参加し、12種目で新記録が誕生しました。



かつお釣り体験アドベンチャー

■7月26日、口永良部島近海で行われ、市内の中学生10名が鹿児島水産高校の実習船「拓青」に乗船して、釣り体験をしました。シイラやツムブリなど43匹の釣果がありました。



カツオの解体ショーを披露

■7月19日、3代目枕崎PR隊「さつま乙女」によるカツオの解体ショーがニシムタ枕崎店で行われました。6月に当店の鮮魚コーナーでカツオ解体の研修を行い、その恩返しとして訪れたお客さんにカツオのたたきを振る舞いました。



夏休みワークショップ「大切な命をつくろう！」

■8月1日から18日までの期間、市制施行70周年記念事業として南浜館で開催されました。70組の応募者がアートストリート作品の100基目を製作しました。



通山区チームが優勝 ～第64回枕崎市少年野球大会～

市自治公民館連絡協議会主催の少年野球大会が7月27日、28日の2日間の日程で開催され、12チームが熱戦を繰り広げました。

決勝は通山区チームと枕崎東チームの対決。両チーム無得点で迎えた3回表、通山区チームが1点を先制します。枕崎東チームも奮闘しますが、5回に通山区チームが2点を追加し、3対0で通山区チームが勝利しました。

通山区チーム主将の山下大翔くん(桜山小6年)は、「最後の地域野球大会だったので、優勝できてうれしかったです。良い思い出ができました」と話してくれました。

大会結果は、次のとおりです。
1位=通山区チーム、2位=枕崎東チーム、3位=大塚チーム、倭積田チーム



100歳おめでとうございます ～安樂俊子さん(高見町)～

安樂俊子さんが7月24日、めでたく100歳の誕生日を迎え、同日、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

安樂さんは、枕崎で生まれ育ち、戦後、母と青果や果物を販売する店を切り盛りしました。母亡き後は、お嫁さんや孫の手伝いをもらいながら、今年の4月まで店を営んでいました。

店が大好きだったという安樂さんは、「土日休みなく働き、規則正しい生活が長寿につながった」と話します。これからも元気で長生きしてください。

平田裕貴さんが凱旋公演をPR ～鼓童ワン・アース・ツアー2019「道」公演キャンペーン～

本市出身で世界的太鼓芸能集団「鼓童」のメンバーとして活躍する平田裕貴さんが7月23日に帰郷し、10月18日に市民会館で開催される「鼓童ワン・アース・ツアー2019「道」」の公演キャンペーンを南浜館で行いました。当日は、プロとして世界を舞台に活躍する平田さんの姿を一目見ようと、地域の方や関係者が多数集まりました。平田さんは、枕崎で過ごした日々のお話や、鼓童での活動の様子を話した後、自身が作曲した「ハネウマ」を含む2曲を火の神乙女太鼓 爽のメンバーと披露しました。

平田さんは「今回の公演は、鼓童の真髓が詰まった公演となっています。僕の作った曲も演奏しますので、枕崎の皆さん、ぜひ見に来てください」と話しました。



ゴールを目指して大海原へ ～第23回みしまカップヨットレース～

7月27日、23回目を迎えるみしまカップヨットレースが開催されました。前日には、南薩地域地場産業振興センターでウェルカムパーティーが盛大に開催され、ヨットレースの参加者や本市関係者が交流を深めました。

レース当日は、早朝4時頃からボランティアの方々による豚汁やカレーなどの炊き出しが行われ、参加者はお腹を満たした後、海へ繰り出していきました。午前6時、前田市長の号砲を合図に、26隻のヨットが枕崎沖から三島村の竹島に向けて出発しました。



枕崎市づくりの熱い1週間！ ～枕崎市ふるさとウィーク～

7月29日から8月4日にかけての1週間、MBC南日本放送のテレビやラジオで枕崎市の魅力を紹介する「枕崎市ふるさとウィーク」が実施されました。

枕崎市ふるさとウィークは第2回「枕崎国際芸術賞展」と「さつま黒潮『きばらん海』枕崎港まつり」の開催に合わせて実施され、両イベントをテレビとラジオを通じてPRしたほか、市のさまざまな話題や頑張っている市民などが連日登場するなど、枕崎づくりの熱い1週間となりました。



後世へ語り継ぐ戦争の記憶 ～立神小学校戦争体験者による授業～

終戦の日を前に、8月1日の出校日に合わせて立神校区老人クラブの2名の戦争経験者が、立神小学校の6年生の児童を対象に戦争に関する授業を行いました。

講師の一人、桑原武夫さんは「私が生きている間に戦争の話をして、戦争をしてはならないということを子どもたちに引き継いでいく責任がある」と話し、戦時中の学校の様子や戦争の怖さなどについて話しました。

話を聞いた同校の阿久根龍心君は「今日聞いた話を従兄弟の子などにも伝えたい」と話してくれました。